



【b-lab（ビーラボ）での研修の様子】

【岐阜県飛騨市】
飛騨市神岡町には「ニュートリノ」の研究でノーベル物理学賞をもたらした「スーパーカミオカンデ」をはじめ、宇宙と素粒子の謎を研究するための研究拠点が集まっています。

「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」は、こうした研究の魅力を広く伝え、科学と社会の新しい関係をつくるための全ての人に開かれた場所となっており、普段感じることのできない素粒子の不思議な性質を迫力のある映像やゲームで体感し、思いを馳せることで日々の生活と宇宙スケールの壮大な物語との間のつながりを感じることができるとなっています。

地元自治体と研究機関、双方の利害が完全に一致し、お互いに協力し合い作り上げた展示施設として「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」は整備されました。展示施設の整備費は約3億円であり企業版ふるさと納税や合併特例債、ふるさと納税を財源と

しています。企業版ふるさと納税については、寄附企業17社、寄附額は1億4860万円に及んでいました。



【カミオカラボの玄関にて】

【産業経済委員会】

令和5年10月30日福岡県朝倉市、飯塚市へ、ふるさと納税について行政調査を行いました。

【福岡県朝倉市】

市の魅力向上を意識したシティープロモーションの視点から業務の企画立案および総合調整を所管し、効果的な情報発信を行うため、シティープロモーション課を新設されました。

平成27年度に約2億円であった寄附額は、令和4年度には29億3千万円に増加しており、今後の取り組みとして新商品開発のための補助制度創設、企業誘致、リピーターの囲い込み体験型・滞在型の商品開発、ポイント、カタログの利用等について検討しているとのことでした。



【朝倉市議会議場にて】

【福岡県飯塚市】

平成30年度に約26億8千万円であった寄附額は、令和4年度には90億8千万円となり、全国8位の実績を誇っています。大人気の「鉄板焼きデミソースハンバーグ」は、ふるさと納税でしか手に入らない商品となっており、この取り組みが商品の返礼品増加につながっていました。

寄付額アップ対策として、経済部特産品振興・ふるさと応援課として合計6名の人員を配置し、経済部として農林振興課、商工観光課とも連携を密に取り組みしていました。



【飯塚市での研修の様子】

【所感】

今回視察を行った2市においては、寄附額の増加、業務委託について、新たな返礼品や既存商品の見直し等、そして寄附金の活用方針までの一連の流れに見直しや方向転換をしています。松浦市においてもまだまだ寄附額増の余地があると思われるため、松浦の極み12品目をはじめ特化した本市ならではの新商品の開発や、広告、PR等にご尽力いただければと思います。

ふるさと納税で得た関係を寄付手続きの一過性で終わらせるのではなく継続的な関係を築いていくことも必要です。寄付をきっかけに興味、関心・交流（観光・イベント）・愛着（松浦市のファン）・関係人口へと発展するような事業を展開できれば、持続可能な地域づくりに寄与すると考えます。

その他各委員会の活動

【文教厚生委員会継続調査報告】

本委員会においては上志佐小学校の在り方について、存続させるとの基本理念を掲げていることから10月に上志佐小学校を訪問し、現況と課題等について校長、教頭より説明を受け質疑を行いました。学校からは、